うしく里山の会 広報誌
さとやま
No. 118　2012年12月号

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
HP http://ushiku-satoyama.org/
（アドレスが変わりました）

子どもたちに残したい 里山の自然

自然観察出前講座　石神　良三

幼児と秋の自然を楽しむ

10月30日（火）晴れ。今回は、市内幼稚園の年長組（5、6歳児）24人との秋の自然観察体験です。

この季節になると、朝夕の気温も一段と下がり始めて、子どもたちの大好きな昆虫や草花の数も少なくなります。そこで大切になるのが、観察予定コースの下見です。

事前の打ち合わせで、幼稚園側の希望する時間とコースが決められていますので、その条件の中で、子どもたちにどれだけ感動的な体験をさせてあげられるかは、子どもたちの成長にとつても、出前講座のあり方にとつても、とても大切な視点と捉えています。

今回の観察時間は、10時から11時の1時間。観察コースは、園外散歩によく出かけるところ。下見を含めて、活動の概略を報告したいと思います。

●下見で観察場所（対象）と安全を把握

観察前に約500メートルのコースを30分ほどかけて、子どもたちの興味関心の高い昆虫や、草木の実を中心に観察対象を確認。同時に、スズメバチや交通上の安全も確認しました。

●野外観察の約束をしっかり

出発前や観察前には、観察の目的や方法を分りやすく話し、だれもが共通体験できるようにしました。

●土手の草地でハグロハバチの幼虫発見

日当たりのよい草地では、チョウ、バッタ、クモ、コオロギ、カマキリ、ヨコバイ、ハエ、トンボ、ミツバチの仲間に出会いじっくり観察。しばらくしてギシギシの葉裏で、女子の一人がハグロハバチの幼虫発見。渦巻きのように丸くなつたその姿に子どもたちは大騒ぎとなつた。正に、感動体験共有の一コマ。

●林の入口でジョロウグモ発見

クモの巣の真ん中にじっとしているジョロウグモ。「何を食べて生きているのかな？」この一言で男子から正答続々。「食べているの見たことある？」皆沈黙。

街路樹

チーム街路樹20　受託事業報告

小野　正二

「餌になる虫がかかるかどうか観察しようか?」私自身は期待しなかったが待つこと11分余り。

掛ったのはどうやらミツバチのようだ。

すぐに移動しミツバチを糸でぐるぐる巻きにしたジョロウグモは、また巣の真ん中に戻りじっとしている。その間の作業は40秒足らず。子どもたちは驚きというか呆気にとられたようすでした。私にとっても糸巻きの観察は初めての体験でした。

今回の自然観察では、偶然とはいえ本物の自然の厳しさを体感できたように思います。子どもたちも子どもたちなりに、いのちの重さを感じたかもしれません。

ジョロウグモ
(ウィキペディアより)

那須平成の森（学びの森）を観察して

（11月号より続き）

小道を歩く。菅原さんがアオハダの根元を見た後、上を見る。「糞を見ています。動物がこの樹に登ったので斜めに傷がついています。テンです。糞の中の種を調べると動物名が分かるのです」「山ブドウの種ですね」種の入った携帯バックからカプセルに入った種のサンプルを取り出して皆に見せる。インタープリターの仕事はいろいろあるものだと、また感心する。右手前方を指差して「トリカブトが咲いています。ちょっと、見に行きましょう」と菅原さん。脇道に入ると、青い花をつけた草があちこちに咲いていた。「この花、葉、根は食べられません。毒ですよ」透き通ったブルーの可愛い花だ。間違えて、食べて死んだ人の話やアイヌ人は毒矢を作った話を思い出した。

ブナの大きな樹を見上げて、「漢字では木編に無と書きますが、役に立たないと昔は言われていた木です」と、菅原さん。本当だろうか。私は白神山地のブナ林は保水量の大きい山と理解しているが・・どうかな。「この森はミズラナ、ダケカンバが多いですが、スダジイ、シラカシはありません」「動物はムササビ、カケス、リス、ニホンザル、ヒメネズミ、キツツキが多く棲んでいます」動物の話しが続く。小さな流れを渡る。倒木が2～3本見えた。人手を入れずにそのままだ。

道端の樹に青色のビニールテープが巻きついている。「これは冬用の道案内用です。1月～3月は雪のため森は閉鎖しますが、その時でも観察調査します。春から秋までは、この道が案内印となります」坂を登る。なかなか急だ。枯れた木が多い場所に出た。コナラの樹の幹一面が穴だらけだ。連続した穴もある。「穴の大きさから見てアカゲラでしょうか」ファイルを開いて説明が始まる。コゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、アオゲラの絵が描いてあった。「キツツキ類が穴を開けるのは次の目的があります。一つ目は食事。樹の中にいる虫を食べます。二つ目は巣を作るためです。三つ目はオスからメスへの求愛のためで、ドラミングといいます。」そして「この巣穴は1回限りで、次の樹に穴を開けます。残された穴はシジュウカラ、フクロウ、

学びの森を探索　小野

ミズナラの古木　小野

ムササビ、リスなど自分で穴を空けることができない他の動物の棲として使われます」動物のマンションの住み替え利用だ。

クマの食べ物について話は続く。「春（3～5月）はブナの新芽、タケノコ。夏（6～8月）はアリ、ハチの幼虫、セリなど草類。秋（9～11月）はアケビ、山ブドウ、ドングリなど木の実。冬（12～2月）は冬眠です。また、クマは樹の上で木の実を食べます。ゆっくり1時間もかけるようですが、意外と小食です。クマは汗腺がないため、汗をかきません」さすが動物について詳しい。しかし、体温調整は何処でするのだろうか。

森の中を歩き回ってもうすぐ出口らしい。遠くに大きな巨木が見えた。幹が太く、大きな枝が曲がり、横に広がっている。ミズナラの樹という。この時期になっても青々とした葉が多く、その枝は天を目指している。凄い大木だ。幹に大きな穴が開いている。「この穴は大きくてよいのですが、位置が低いので巣穴には適していません。他の動物の侵入可能ですからね」巣穴は大きければよいわけではないらしい。太い枝の下に小さな穴が開いていた。覗き込んでビックリした。何とキノコが生えていた。植物の世界は共存共栄だ。

アカゲラのあけた穴　小野

「この樹は古木で、樹齢200年くらいでしょう」と菅原さん。

小道を歩く。静かな森だ。私が「インタープリター菅原さんの楽しい事は何でしょうか」と問いかけたら「第一に動物との出会いです。特にツキノワグマが生き延びてほしい。次に植物の花、木の実の実態調査をしている時、そして皆さん方をガイドしている時」と、嬉しそうに答えてくれた。

秋の陽を浴びながら、樹木、木の実など植物の楽しい会話と珍しいクマ、テンの爪痕やアカゲラの巣穴も見ることが出来た、あっという間の充実した研修でした。

終わりに「那須平成の森（学びの森）」の研修を企画した假屋さん、そして会計・渉外の増田さんに感謝いたします。

親子農業体験講座
一般参加者　田口　珠美

美味しい蕎麦を食すため

秋、里芋・さつま芋の収穫祭が終わると、本講座のクライマックス「蕎麦打ち」に向けて、参加者一同に気合が入る。8月に種を蒔いたソバは、雑草取りもいらず、手間もかからずぐんぐん伸びて白い花を咲かせる優等生だが、その後の行程は、刈り取り・実落し・乾燥・唐箕かけと手間のかかる大仕事となる。昨年、実落しに2日間かかった苦い経験もあり、皆、重労働を覚悟して挑んだ。

刈り取りの日は好天に恵まれたが、強風の日があったため、ソバは倒れて絡み合い、櫛で梳かしたくなる有様。貴重なソバの実を落さぬよう、泥をつけぬよう、長さや向きを揃えて・・・刈り取りは一筋縄ではいかない。子供も大人も鎌を手に黙々と刈っては、木蔭のソバ干し台に運ぶ。今日はソバの収穫と聞いて、「今日お蕎麦食べられるの？」と言った子がいたそうで・・・芋は収穫した日に食べたので、蕎麦も同じくその日に食べられると勘違いしたらしい。残念ながら蕎麦が口に入るのはまだまだ先なのである。

2週間後、大きく広げたブルーシートの上に、干されたソバを置き、棒で叩いて実を落とす。普段「棒を振り回しちゃダメ！」と怒られる子供達も、今日は大人公認で棒を振り下ろす。棒にあきると、実を落とした後のソバの藁をせっせと集め大きな鳥の巣を作り、その上で飛び跳ね転げ回る。藁屑と埃まみれで喜々として遊んだり、仕事を手伝ったりする子供達の逞しい笑顔に成長を感じた。

そばの実落としに頑張る親子

叩いても落しきれない実を手作業でこそげて篩にかけ、実とゴミと虫を分別する。乾燥状態も良く、作業は順調に進み、参加者の頑張りもあって昼過ぎには作業終了！この講座で一番の重労働を乗り越えて、皆ホッと一息。3週間後には、待望のおいし～いお蕎麦が楽しめるはず。

本年度の親子農業体験講座は、少数精鋭のリピーター参加者＆スタッフで、仲良く、楽しく、手際良く進み、新しい挑戦（里芋のマルチ農法・牛蒡の波板栽培法・落花生と西瓜の栽培）もできて、とても豊かな体験をさせて頂きました。お世話になったスタッフの皆様、共に汗を流した参加家族の皆様、ありがとうございました。

それと、畑と森とお天道様にも。子供達の遊び相手になってくれたカエルやバッタやダンゴ虫、名前も知らない虫や草花達にも感謝の気持ちでいっぱいです。

里山自然観察隊　本田　寛

モニタリング1000里地調査を実施

今月は11月16日（金）に実施したモニタリング調査について報告します。

午前8時30分得月院前駐車場に集合。城中町の所定コースでの調査。気温13度前後、快晴、ほとんど無風。参加者は4名、何時もの3名と初参加のSさん。終了は午後2時近く。時間は掛かりましたが、気持ちの良い気象条件の中での調査活動でした。

時節柄、すっかり里山は秋の装い。集落では赤や黄色の紅葉、赤く熟した柿や橙色の鈴なりのミカン、また山林部では赤い実を付けたアオキ・シロダモ・タチバナ等の木本植物が目に付きました。水田では丈は低いが切り株から伸びた稲が出穂、周辺では茎が枯れたガマやヨシの立ち姿。一方、深緑色の光沢のあるヒガンバナの葉が各所で観察され、枯れた植物の多い中、一際鮮やかな「緑」が映えていました。

得月院前駐車場下の城中街道へ向かう坂道の端に帰化植物で外側が白色、真ん中が黄色い地味で小さな花のハキダメギクがこの季節の寒さにもかかわらず数多く咲いていました。「掃き溜め」で初めて見つかったことが名前の由来とのこと。一寸可哀想な名前です。

城中街道の竹林、孟宗竹の脇に真っ赤に熟したトウモロコシに似た形状のマムシグサの果実が観察できました。マムシグサは湿った林内に生える雌雄異株の多年草。今の時期、葉がすっかり枯れ落ち茎の先に果実がにょっきりと付いていました。

孟宗竹近くに立つマムシグサの果実

牛久城址の樹木林入り口では、樹の樹皮に着生している常緑性シダ植物のノキシノブを確認。この名前は家の軒先に生育し、土が無くても耐え忍ぶということに由来するとのこと。城中集落の道路際のコンクリート壁にも生育していました。

牛久城址の樹木林では、3株のフユノハナワラビを見つけました。黄金色の綺麗な胞子葉が真直ぐ上に伸びており、この葉を花に見立てて「ハナワラビ」と命名されたとのこと。

牛久城址西側の田んぼ周辺の土手にはオニノゲシとノゲシが多数生えていました。蕾、花、実を付けた勢いのある株です。ともに花は黄色。ノゲシは、葉が柔らかく縁の鋸歯に触っても痛くありませんが、オニノゲシは鋸歯に触ると固くて痛いです。

11月も半ばを過ぎると花を咲かせている植物に比べ実を付けているものが多くなるのですが、冬が近くなっているにもかかわらず、蕾、花、実、胞子を付けている植物数は前月比さほど減らず、今回、延べ約500種を記録しました。

雑木林応援隊　片山　正

ツルカゴ教室の事前準備作業と当日の様子

●10月14日（日）・21日（日）、恒例の「ツルカゴ教室」に使うツル集めを行いました。一般的によく使われるツルには、「あけび」「つづらふじ」「くず」「すいかずら」等があります。

今回は、牛久自然観察の森と隣接のムジナから「あけび」と「藤」の2種類のツルを採取しました。高い木の上まで伸びたツルを途中で切らない様に取るのは大変です。手ごろな太さと長さのツルを見つけると根元をナタで切り、木に絡まっているツルを手作業ではずし、チルホール（万能ウインチ最大500kgまで牽引で引っ張りツルを木から取ります

チルホールでツルを引張る隊長

が、3割～4割程度が、途中で切れてしまいます。上手く取れると喜びの歓声が森中に響きわたり、途中で切れると「あー」という悲鳴が聞こえ、上手く採取できたかどうかすぐに分かります。

小さいツルを人手で取る時は、ツルが木から外れる弾みで尻餅をつく人もいて、皆が大丈夫かと声をかけますが本人は満足して照れ笑い。両日で集めたツルは、軽トラ2台分にもなりました。昨年は、軽トラ1台超でも足りなくなり当日追加でツル集めをした苦い思いがあり、今回は、2日間かけてツルを大量に準備する事が出来ました。

●10月28日（日）の「ツルカゴ教室」当日は、スーパーのタイムセールで我先にと群がる主婦の光景と同じく、目当てのツルに群がる参加者の迫力にスタッフ一同が驚かされました。今年も大人気の催し物です。

軽トラからツルの荷下し作業

心配していたツルも数は足りたようで安心しました。午後から雨の予報と言うことで、緊急避難テントを準備しての開催でしたが、午前中に

大半の人が作品を完成されました。

途中から雨が降り、未完成の人のみテントで作業を再開しました。21名の参加者の皆さんからも満足の声が聞かれました。

参加者の皆さんと作品

巨木リサーチ2事業報告

森田　格

平成24年度第3回東部地域巨木ガイドの実施

さる10月7日（土曜日）の東部地域の巨木を巡るガイド活動を報告します。牛久市役所を出発して、小坂町十三塚墓地、同熊野神社、久野町茨城農芸学院、正直町駒沢家、正直町皇産霊神社と回り、市役所に戻ってくるルートです。私は初めてのガイド活動ということで、うしく里山の会のベテランの方々の説明を聞いて勉強するとともに、誘導係を担当しました。

一般応募参加者13名、市緑化推進課1名、うしく里山の会4名が参加、小雨の降る中、予定通り8時30分にバスで市役所を出発しました。

車中では、巨木調査等のうしく里山の会の活動紹介、奥野地域の沿革と概要の説明が行われました。

最初に訪れた小坂町十三塚墓地には、樹高15mになる「市民の木№34」のスダジイがあります。幹周は4．79mにもなり、今回見学した巨木の中では最大のものとなります。ここでは、周囲の樹木や植物相だけでなく、幹周の測定方法についても説明がありました。

次に訪れた熊野神社には、庚申塔と呼ばれる石造物があります。史料によりますと、庚申塔とは、庚申信仰をもとに造られた塔で、この信仰は、平安時代初期より宮廷貴族の間で広まり、鎌倉時代になると武士・僧侶、江戸時代になると一般庶民にも浸透したもののようです。

次の久野町茨城農芸学院にはユーカリノキがあります。オーストラリア原産で、コアラの食糧としてお馴染みです。日本では風や寒さで弱ってしまい、倒れてしまうものもあるようです。そういえば、私が昔住んでいた町にもユーカリノキの街路樹がありましたが、ほとんど葉をつけておらず、枯れているような様子でした。そのような事を踏まえますと、こちらのユーカリノキはとても立派に育ったものと言えそうです。

正直町駒沢家には、「牛久市の木」である樹高14mになるキンモクセイがあります。例年でしたら、家の門のところから香りが漂ってくるそうですが、まだ開花のピークを迎えていないことと、小雨が降っていることから、今年はその香りも半減でした。来年は、ちょうど良い時にお伺いして、五感をフルに活用して十分に楽しみたいものです。

最後の正直町皇産霊神社には、樹高26mと24mのケヤキ、樹高16mのムクノキがあります。ここでは、神社や鳥居、石造物等についての説明がなされました。

小雨の中「市民の木No.34」スダジイの前でガイドの説明を聞く参加者　戸塚 12.10.7

終始質問が絶えない活発なガイド活動となりましたが、予定通り12時に市役所へ戻ってきて、無事解散となりました。

自由投稿

坂　弘毅

アメリカのワイルドな植物を訪ねて（その2）

【キングスキャニオン国立公園のレッドウッド】

今回はキングスキャニオン国立公園のレッドウッドです。キングスキャニオン国立公園は、隣接してセコイヤ国立公園があります。あまりにも近いため、国立公園局は管理上「セコイヤ・キングスキャニオン国立公園」として管理しています。アメリカ西海岸を縦断するシェラネバダ山脈の南部に位置し、ロサンゼルスから320㎞北、サンフランシスコとの中間に位置します。1940年に国立公園として設立され、1869・25㎢の広さがあります。この両国立公園を足がかりにする都市にフレズノ市があり、観光拠点都市として多くの観光客が訪れます。

セコイヤ国立公園には「シャーマン将軍の木」（前回報告しましたが）、こちらには「グラント将軍の木」があります。いずれも巨大です。キングスキャニオン国立公園は2つのエリアから成り立っていて、その一つが「グラント将軍の森」、二つめは「レッドウッドの森」です。いずれもセコイヤの木が15、800本自生しています。その大きさは前回報告しましたが、「ジェネラルシャーマン」（シャーマン将軍の木）が、高さ＝81・5m、体積＝1343㎥、

キングスキャニオン

樹齢（推定）＝2000年～3000年という巨木に対し、グラント将軍の木は前者同様ジャイアントセコイア（Giant Sequoia, Big Tree）、スギ科（Sequoiadendron giganteum）で、樹齢2000年、樹高80m、根本の直径12m、周囲33mという、想像を絶する巨大な樹木でした。

キングスキャニオン国立公園は、今でこそアメリカ有数の国立公園として注目されていますが、ここまで来るには多くの障害がありました。ここの谷が、日本の尾瀬でも問題になったようにダム建設の問題に揺れた時期がありました。論争は、その後1965年、谷がTehipite Valleyと一緒に既に存在していたグラントの森国立公園に編入されたときに決着しました。

機会がありましたら、是非一度訪れていただきたい国立公園です。ロサンゼルスからフリーウエーを車で飛ばして3時間で行けます。アメリカでは大変近い距離だと思います。

キングスキャニオン

里山セミナー報告

坂　弘毅

10月13日、本年度第2回公開里山セミナーが牛久自然観察の森で開催されました。

今回のテーマは、「牛久の巨樹」です。うしく里山の会のプロジェクト、[巨木リサーチ2]の渡辺泰代表を講師にお迎えし巨木リサーチのこれまでの活動経過と、市内に残された巨木の実態を細かく講演されました。これまで文書による報告や刊行した[牛久の巨樹]で実態を把握していましたが、渡辺　泰さんの講義によって理解は更に深まったようです。

参加された方々は真剣な眼差しで傾聴され、貴重なご意見を寄せていただきました。

以下に、アンケートの内容をまとめてみました。

大多数の方は牛久市内在住ですが、一部市外（県内）の方もおられました。

（感想・意見）

1. 牛久の巨樹の様子がわかった
2. 手法から結果まで一貫性があって理解できた。
3. 取組内容に敬意を表したい。
4. [牛久の巨樹]を購入し、渡辺さんのお話を直に聞きたくて参加した。
5. 時間を見つけて、市内の巨樹を訪ねてみたい。類似意見：地域特性の樹木など訪ねてみたいが、ガイド情報が無い。
6. 幅広い知識が合ってこそ、結果を出せたことと思う。
7. チームをうまく編成し、きめ細かいデータを収集・整理されたことに敬意を表したい。
8. 巨木の実態として、樹勢の衰えや倒木も出ている由、具体的な保護を検討して欲しい。
9. これらの巨樹が、これから先どのように保全されていくのか心配している。
10. これまで巨樹見学会に参加してきたが、今回の説明で理解が深まった。

以上

大勢の参加者の会場

自由投稿

飯田雅俊

行ってきました東北へ

実りの秋と言っていた時もすでに過ぎ、落葉の中を襟を立て足早に歩く季節になりました。自然の移ろいに大きな喜びと恵みうけている私たちですが、時には自然から大きな災いをも与えられてきた。昨年がそうであったと思う、先人はそれを記し私たちはそれに備えなければならなかった。

昨年の夏に家族で松島から気仙沼まで車で走ったことは今年の会報に書いた。その時の気持ちがいつまでも忘れられずいた。何かをしなければ、どこへ行ってよいのかが分からずいた。インターネットでは1泊あるいは2泊でイベントの手伝い、瓦礫撤去等があったが。腰痛もあることからなかなか決心がつかずにいた。

今年の夏の終わりに仕事の区切りのつくことから被災地の社協・ボラセンにメールを送り、お手伝いしたいのですが半月ほどと申し出たが、こちらの企画に参加してください。また、貴方がプログラムを持ってくるならば貴方の日程に合わせて検討しましょうとの返事。私に何ができるのか、プログラム??、求められるものが変わってきている事を感じる。

甥の友人が大船渡にいるので何か手伝うことはないかと探してもらう。

NPOを紹介され、さっそく東京事務所に電話して様子を聞く。ザックに寝袋、着替え、手に長靴と支度を整え翌日に出発。

上野発9時02分発「はやて」に乗車、新幹線に乗ったのは久しぶりである。車内は広く検札が来ない。キョロキョロしているうちに仙台、乗り換えて新花巻に着く。

駅舎内のお店を覗いていると「注文の多い料理店」

の駅弁あり、帰りはこれに缶ビールを買って新幹線にと思った。けれど駅弁を買う時に何か注文されたらどうしよう。

猿ケ石川を右手に見て車窓の人となった。両側に山が迫り、山から染み出した水があつまり水量の多い清流である。「銀河鉄道の夜」のモチーフになった川と思いを馳せていたら、遠野到着が12時45分、牛久を7時51分発に乗り、5時間でジョバンニや座敷ワラシに会えると思うと、地図と本の中だけだった土地が近く感じられた。

なぜ遠野なのかというと、ここは三陸海岸の後方支援基地になっている。大船渡、釜石、大槌等へは1時間でいけるので沿岸部からの要請に対応できることらしい。

さてボランティアに行って何をしてきたのか、腰痛をかかえている体で邪魔をしてきたのかと言われそうだが、瓦礫撤去の仕事は今でもあるが、いろいろな仕事をしてきた。その中で復興は進んでいないと強く感じた。機会があったら何をしてきたか、どんな人たちが来ていたかお話ししたい。

トピックス

トノサマバッタの産卵を見ました

11月25日（日）の昼過ぎ、暖かい小春日和です。

自然観察の森から帰る途中、園路で小さく動くものを見たらトノサマバッタが産卵をしていました。

園路を通る人たちに教えたら、皆さん、初めて見ました！子どもたちも感動していました。産卵後は後足で穴を埋めるようですが、今回は見れませんでした。（佐藤輝雄記）

結束町みどりの保全区 エコアップ作戦　蓮尾 亮

うしく里山の会全体事業「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。「エコアップ作戦」で体を動かして、林を綺麗に整備しませんか？自分たちで綺麗にした場所を見ると、とてもさわやかな気分になりますよ♪

活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしています。

12月の活動日時→第1金曜日と第3日曜日の活動になります。

7日（金）午前9時～11時30分
16日（日）午後1時～3時30分

集合→牛久自然観察の森ネイチャーセンター1階倉庫前（予約不要／荒天時は中止）

持ち物→長靴、軍手（長袖、長ズボン）

※刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先　029-874-6600　担当：石神

身近な樹木 No.21 ヒイラギ

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木で、高さ4～8mになります。本州（関東地方以西）・四国・九州・琉球・台湾に分布します。本県が分布の北限で、市内では管理放棄雑木林などに生えていますが、本当の自生か、はっきり分かりません。また庭木や生垣に多く用いられています。

雌雄異株。幹は直立して多数に分岐します。葉は楕円形から卵状長楕円形で、対生し、厚くて硬く表面には光沢があります。若木は縁に鋭いギザギザ（鋸歯）があり、先はさわると痛い棘状になっています。老木はギザギザがなくなり、縁はなめらかになります。11月頃、葉のわきに小さな白色の花を咲かせ、良い香りを漂わせます。果実は長さ12～15㎜の楕円形で、翌年の7月頃、黒紫色に熟します。

名前は葉の鋸歯に触れるとひりひり痛むので、この名がついたと言われています。昔からヒイラギの葉の鋭い鋸歯が、魔除けになると信じられ、屋敷の入口に植えたり、節分にイワシの頭とこの枝を家の出入り口に飾る風習があります。（石川満夫）

ヒイラギの開花期の樹冠
渡辺 07.11.17

2012年 12月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1 ○親子農業体験講座 9:00観察舎 ○チーム’街路樹20 8:00研修見学会
2 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）	3 （休園日） ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	4 ○森の畑 9:30畑	5 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）	6 ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	7 ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 9:00NC ○クラフトプロジェクト 13:00NC	8 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）
9 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 （休園日） ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	11 ○森の畑 9:30畑 ○里山自然観察隊 （ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ里地調査） 8:30得月院前P	12 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き） [会報等原稿〆切]	13 ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	14	15 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）
16 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○里山保全ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ 13:00NC	17 （休園日） ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	18 ○森の畑 9:30畑	19 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）	20 ○アヤメ園（受） 7:20アヤメ園P	21 ○クラフトプロジェクト 13:00NC	22 ○チーム’街路樹20 13.00～15.00交流会
23 （天皇誕生日） ○雑木林応援隊 9:00炭屋	24 （振替休日）	25 （休園日）	26 （休園日） ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）	27 ○森の畑 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	28	29 ○チーム’街路樹20 9:00図書館・談話室 （落葉掻き）
30	31 （休園日）					

※活動日は天候等により変更となる場合があります。

最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

森：牛久自然観察の森
NC：牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P：牛久自然観察の森駐車場
炭小屋：牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑：牛久自然観察の森駐車場奥の畑
コジュケイ：牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑：牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市役所：牛久市役所本庁舎
市役所脇：市役所横の近隣公園
ボランティアC牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C：牛久市中央生涯学習センター

アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園

（休園日）：牛久自然観察の森休園日
（受）：受託事業
（特）：特別事業

編集後記

各地から雪の便りが聞こえる本格的な冬のシーズンが到来しました。

もう、あの暑さは何だったのかと書いても過去のことですね。

私も先日、インフルエンザの予防接種をしてきました。風邪防止のためここ2～3年実行していることがあります。それは外出から帰ったらアルコールで手指の消毒、人ごみへの外出はできる限りマスク着用。こんなことを実行しているためか3年ほど風邪はひいていません。

●先月号のこの欄に「ダンゴムシ」のことを書きましたが、また新しい情報を見つけました。一つは、読売新聞での編集手帳で掲載されていたので調べてみました。「ダイオウグソクムシ」という生物。これはダンゴムシやフナムシの仲間ですが、体長は約30㎝。三重県の鳥羽水族館で飼育されているとの事です。約４年間、何も食べずに絶食状態。餌のアジを食べたのが２００９年1月、それを最後に何も食べていないとの事。

不思議だなと思っていたら、二つめ、今度は「オオグソクムシ」これもダンゴムシの仲間で体長は15㎝位、アクアワールド大洗水族館で飼育されていますが、この生物は、アジを丸ごと入れると約2時間で骨だけにしてしまうとのこと、食べっぷりから「海の掃除屋」の別名も。同じ仲間でもいろいろいるものです。

更にまたも不思議な生物を知りました。「クマムシ」。体長は０．５㎜～１．０㎜、日本には約30種がいるようです。

すごいのは環境条件、水がなくても１２０年。摂氏１５０度、マイナス２０００度に数分間おいても死なない。真空状態から７５０００気圧、そして強い放射線に当てても生き残るようです。まさに宇宙人、こんな生き物がこの世にいるとは本当に不思議なものですね。陸上の湿ったコケや森林の落葉土に生息しているとの事です。興味を持ったら調べてみてください

佐藤　輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2013年1月号の発送は12月27日（木）発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。　　メールのアドレスは（u-satoyama@jcom.home.ne.jp）です。

※表紙上段の「うしく里山の会」のホームページのアドレスが変わりました。